

020

ワークショップや紙芝居、防災アドベンチャーなど「楽しめる体験」を通して防災を考えるきっかけを作る「ツクモルプロジェクト」

取組主体		
特定非営利活動法人リテル		
従業員数	想定災害	実施地域
4人	全般	東京都

・ものづくりを軸にした、「学びの体験」を通じて、防災について「自分ごと」として考えるきっかけをつくる。クリエイティブの力で、災害は「これから起きること」ととらえる仕掛けをつくり、防災への意識を高める。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

ものづくりを軸にした「楽しめる体験」を通して防災を考えるきっかけをつくる

・ものづくりで災害に対し関わっていきたいという発想から、2016年5月より活動を開始した「ツクモル」は、「つくる」と「まもる」を合わせた言葉である。活動初期は「災害時に役立つグッズ」をつくり販売するという活動を主に行っていた。現在は、もっと多くの人に楽しく防災を考えてもらいたいとの思いから、災害時に役立つ「ものづくりワークショップ」や、「防災かみしばい」、「防災アドベンチャー」などの様々なコンテンツで活動を行っている。



防災お守り隊



デコホイッスル

・活動のきっかけとなったのは、2016年4月に起きた熊本地震である。プロジェクト代表は「災害はいつどこでくるかわからない」ことを強く実感した。同時に、大きな被害をもたらした東日本大震災の衝撃が自分たちの中で薄れてしまっていたことにも気がついた。代表は、「これから」に対するアクションを起こすため、熊本地震発生の約1ヶ月後から活動を開始した。



ワークショップの様子

・災害を「過去の出来事」と捉えれば、どうしても風化してしまう。「これから起きること」と捉え考えていくことが、過去を忘れないことにも繋がる。ものづくりを軸にした「体験」を通じて、防災を「自分ごと」として考えるきっかけとしている。

・また、防災意識の向上を目的として、防災グッズを制作する「ワークショップ」を企画・実施している。ワークショップでは、「防災お守り隊」と「デコホイッスル」を中心に制作している。ペンで絵や柄を描き、フェルトやリボンで飾り付けたお守り袋の中に、LEDライト・防災ガイド、医療情報カードを入れた「防災お守り隊」作りは、特に人気である。また、災害時に「閉じ込め」にあった場合に利用するホイッスルのデコレーション（デコホイッスル）も、年齢を問わず人気である。他にも、ランタン作りやパラシュート用の紐で作るパラコードのアクセサリなど、過去さまざまなワークショップを行っている。



暮らしを守るデザイン制作の例

・ワークショップは、親子を対象に30分~1時間程度のプログラムで定期的に行っている。

・ワークショップでは、自分達がつ作っているアイテムが災害時にどのように役に立つのかということを教え、「こういったことに使えるんだ」という学びや、「災害時にはこんなことが起きるかもしれない」という理解に繋がるようにしている。

・また、「防災お守り袋」ワークショップでは配布する3点セット（LEDライト、防災ガイド、医療情報カード）以外にも自分で役立つようなものを入れてみよう！とアナウンスして、どんなものが災害時に立つと思うか、子どもたちに自主的に考えてもらう時間も大切にしている。ワークショップを通して、ただものを作るだけでなく「自分で考えてみる」時間も作ることで、参加者の防災意識の向上に繋げている。

国土強靱化

- ・プロジェクトの代表が現役デザイナーであることや、他のスタッフもクリエイターであることを活かし「防災ガイド」、「避難所マップ」、「AED 設置ステッカー」など、暮らしを守るデザイン制作も行う。
- ・メンバー自身が防災に対して意識が低かったからこそ、同じような人たちがちょっとでも防災について考えるようになってほしいという思いを、プロジェクトメンバーが得意な「ものづくり」を通して伝えている。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・デコホイッスルやお守り袋（LED ライトや防災ガイドが中に入ったお守り）は、有事の際に活用可能であり、平時から持ち歩くことを推奨し、意識づくりを働きかけている。
- ・防災×謎解き×冒険を組み合わせたイベント「防災アドベンチャー」では、施設内を回遊する内容のため、参加者が施設の隅々まで周り、実施施設の常設展示が賑わう様子が見られた。また、代表が所属するデザイン事務所ヒゲプロでは、以前より公共デザインの依頼が増加し、意義を感じる業務が増えた。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・防災啓蒙という公益性の高い活動をするにあたり、ボランティア的な働きを求められることも多く、ワークショップやイベントの開催費用について困難が伴うこともあった。それを解決するために公益活動を行う NPO（特定非営利活動法人リテル）を設立し、NPO 活動の一環として取組を進めている。

4 周囲の声

- ・火事とか地震の時に、どうやって逃げるのかゲームを通してわかりました。（イベント参加者）
- ・かわいいお守り袋が作れたので、ランドセルにつけて持ち歩くようになります。（イベント参加者）
- ・子どもが一生懸命取り組んでいる様子が見られてよかった。（イベント参加者）
- ・大変盛況で、館内も賑わったので、今後も年に 1-2 回開催したいと思いました。（イベント実施施設の方）

担当者の声

- ・災害時に自分の得意分野であるデザインの力を活用したいと考えても、実際にできることはとても限られてくることと思います。東日本大震災や熊本地震など、さまざまな災害が起きるたびに何かできることはないかと考え、もどかしさを感じていました。そうして思い至ったのが、災害発生後ではなく、災害が起きる前のアクションとして「ものづくり」を活用するというアイデアです。実際ワークショップを行うと、今まで災害についてあまり考えたことがなかったという参加者も多くいて、防災について考えるきっかけ作りとしてデザインが役に立つ実感がありました。作るものはホイッスルや LED ライトの入ったお守り袋などのちょっとしたものですが、ワークショップでの体験を通して災害について少しでも日常の中で意識するようになってくれたらと思います。

問合せ先	動画	サイト URL
特定非営利活動法人リテル 法人番号：2013305003383 TEL：03-6821-9292 E-Mail：info@tsukumoru.com	—	